

「インフルエンザ」、「鳥インフルエンザ」と

「新型インフルエンザ」の違い

更新日 H24.3.9

＜インフルエンザウイルスには3つの型がある＞

「インフルエンザ」、「鳥インフルエンザ」、「新型インフルエンザ」のいずれにおいても、「インフルエンザウイルス」が原因です。

インフルエンザウイルスには、大きく分けて、A、B、Cの3つの型（「属」といいます）があります。A型インフルエンザウイルスは、ヒトや鳥、豚などの動物が感染し、B型とC型のインフルエンザウイルスは、ヒトだけが感染するといわれています。

＜「インフルエンザ」はA型かB型のインフルエンザウイルスが原因＞

ヒトが、A型とB型のインフルエンザウイルスに感染した場合、鼻水、くしゃみ、咳、発熱などの症状に加え、38℃を越えるような高い熱や頭痛、筋肉痛などの全身症状が強く出ます。

我が国の場合は主に冬場が中心となりますが、国や地域によって流行が起こる季節があることから、季節性インフルエンザと呼ばれることがあります。

一方、C型インフルエンザウイルスに感染した場合は、鼻水が増える程度の症状で済むことが多いとされています。また、感染を繰り返さないことから、健康上は問題視されません。

＜A型インフルエンザウイルスにはバリエーションが多い＞

A型とB型のインフルエンザウイルスには、「亜型」と呼ばれる型がいくつかあり、亜型のなかにも「株」と呼ばれる型があります。

「亜型」や「株」の違いは、生き物の体内で、単独のウイルスが変化し、複数の型のウイルスが同時に感染して混じり合うことにより、遺伝子レベルの構造を変化させるために起こります。この変化は、「変異」と呼ばれ、B型に比べ、A型のインフルエンザウイルスで起こりやすいようです。

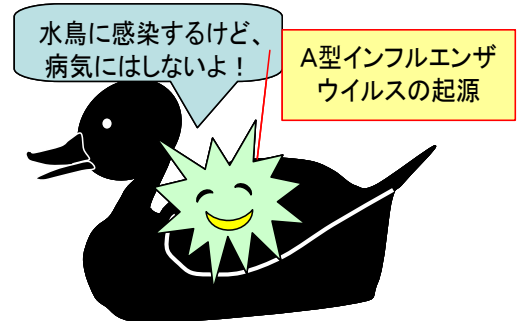
インフルエンザに繰り返しかかることや、予防接種を受けたのにかかってしまうことがあるのは、これらの型の違いが原因です。

< A型インフルエンザウイルスの起源 >

A型インフルエンザウイルスの「亜型」は、ウイルスの表面にある突起のうち、ヘマグルチニン（H型、16種）とノイラミニダーゼ（N型、9種）の形の組み合わせで分類されます。

カモなどの水鳥からは、全ての亜型が見つっています。

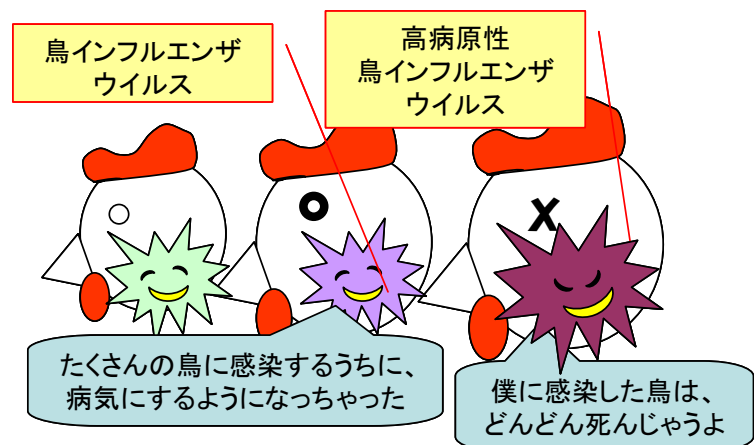
一方、ヒトで流行したA型インフルエンザウイルスの亜型は、H1N1、H2N2、H3N2が知られています。



< 鳥インフルエンザ >

水鳥では、通常インフルエンザウイルスが腸管に存在しており、水鳥自体に病原性を示すことはほとんどないと考えられています。水鳥が感染していたインフルエンザウイルスは、野鳥を経由して、家きん（飼育目的で飼われている鶏、あひる、うずら、七面鳥など）などに感染します。家きんに感染したインフルエンザウイルスは、家きん集団の中で感染を繰り返します。

そのうち、家きんに病原性を示す「変異株」が出現します。この「変異株」によって引き起こされる感染症を、「鳥インフルエンザ」と呼び、通常は鳥類の病気です。

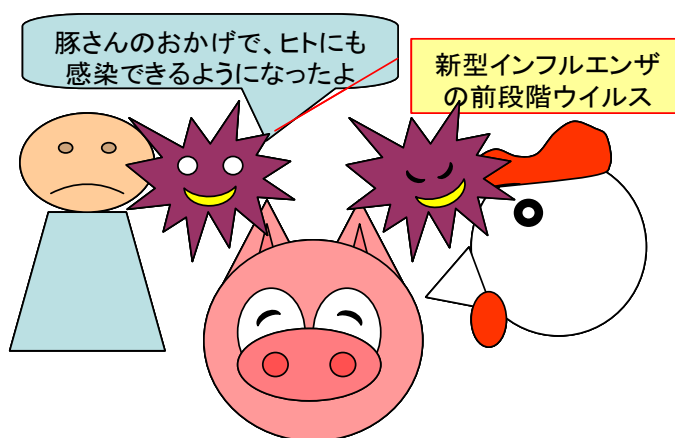


「鳥インフルエンザ」のウイルスのうち、家きんの致死率が特に高い「強毒株」を、「高病原性鳥インフルエンザウイルス」と呼びます。日本では、H5亜型とH7亜型の場合は致死率に関係なく「高病原性鳥インフルエンザウイルス」として、殺処分、消毒、家きんや卵などの移動制限などの措置が取られます。

一般的には、鳥インフルエンザウイルスは、ヒトに感染しません。しかし、現在アジアを中心に蔓延している「高病原性鳥インフルエンザウイルス」（A型インフルエンザウイルス、H5N1亜型（H5N1））は、ヒトに感染し、584名の感染確定者と、345名の死亡者が報告されています（WHO発表、2012年2月8日現在）。これらの犠牲者の多くでは、病気の鳥を含めた多数の鳥を家の中で飼育したり、大量の死んだ鳥を触ったり、濃厚な接触が確認されており、感染した鳥からH5N1亜型のウイルスに感染したとみられています。

<新型インフルエンザ>

新型インフルエンザは、人類がこれまでに会ったことのないインフルエンザウイルス（新型インフルエンザウイルス）に感染して起こるインフルエンザです。特にヒトからヒトへと感染する能力を持っているかどうかポイントとなります。



新型インフルエンザウイルスは、A型インフルエンザウイルスが変異して出現すると予測されています。特に鳥が感染するA型インフルエンザウイルスには、ヒトが免疫を持たないH型やN型を持った亜型があり、新型インフルエンザ

ウイルスの供給源とされています。現在、アジアを中心に流行しているH5N1亜型のウイルスが、鳥からヒトへの感染を繰り返すうちに、ヒトからヒトへと感染する能力を獲得することが心配されています。

また、豚には、鳥とヒトが感染する両方のA型インフルエンザウイルスが感染します。豚に、鳥とヒトが感染する両方のA型インフルエンザウイルスが同時に感染し、鳥が感染するインフルエンザウイルスが変異して、ヒトからヒトへと感染する能力を獲得するかもしれません。実際、20世紀以降に出現したスペインインフルエンザ（1918-1919年）、アジアインフルエンザ（1958-1959年）、香港インフルエンザ（1968-1969年）、インフルエンザ（H1N1）2009（2009-2011）では、鳥から豚を経由して新型インフルエンザウイルスが出現したとみられています。

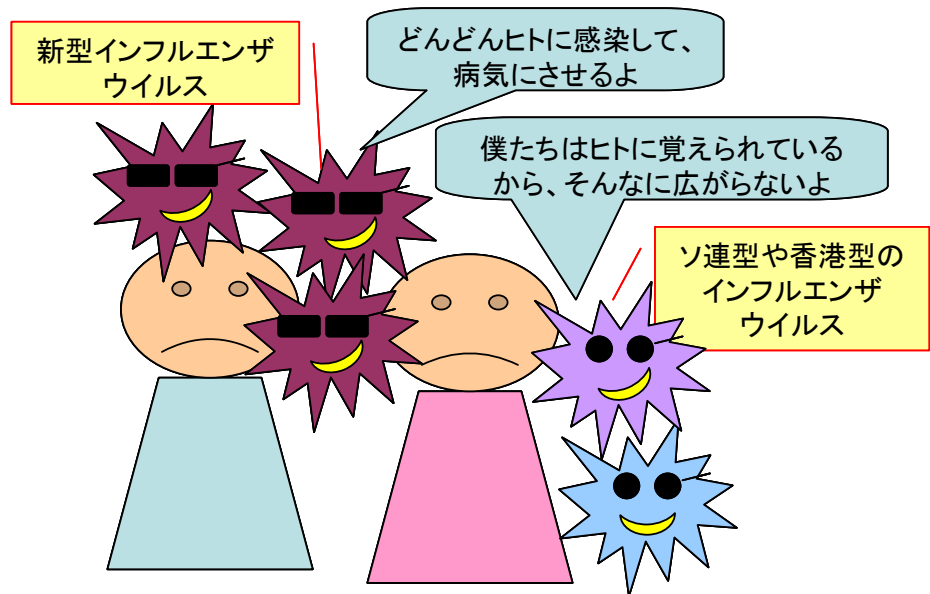
新型インフルエンザウイルスが出現した際には、感染したことのあるヒトが存在しないため、誰も免疫を持ちません。

(20世紀以降に起こったパンデミック)

何らかの形で人類が新型インフルエンザウイルスに対する免疫を持つようになるまでは、世界中で多くのヒトが影響を受けます。もし、この新型インフルエンザの病原性や致死率が高い場合、社会的にも影響を及ぼします。このような、世界的に大きな影響を及ぼす流行を、特に「パンデミック」と呼びます。「パンデミック」を引き起こした新型インフルエンザは、これまでもたびたび出現しており、20世紀以降に限っても、スペインインフルエンザ、アジアインフルエンザ、香港インフルエンザ、そしてインフルエンザ（H1N1）2009（2009-2011）が記録されています。

名前（ウイルスの型）	流行年	推定死者数（全世界）
スペインインフルエンザ（A/H1N1）	1918-1919	4,000万～5,000万人
アジアインフルエンザ（A/H2N2）	1957-1958	200万～400万人
香港インフルエンザ（A/H3N2）	1968-1969	100万人以上
インフルエンザ（H1N1）2009	2009-2011	1万5千人以上

次の新型インフルエンザの原因となる新型インフルエンザウイルスとして最も警戒されているのはH5N1亜型のウイルスです。しかし、それ以外にもいくつかの亜型が鳥からヒトへと感染したことがわかっているため、どの亜型が新型インフルエンザウイルスとなっても、また、いつ新型インフルエンザが発生しても、おかしくないと考えられています。



<インフルエンザや新型インフルエンザの予防>

新型インフルエンザウイルスの感染経路は、現時点ではわかりません。しかし、現在ヒトが感染するインフルエンザウイルスと似たものになると考えられています。

ヒトのインフルエンザウイルスは、感染者や患者の鼻水、咳やくしゃみによって飛び散るしぶき（飛沫）に含まれています。そのため、ヒトのインフルエンザウイルスの感染経路は、以下の二つとみられています。

まず、飛沫を含んだ空気ごと吸い込み、鼻やノドの粘膜に感染する「飛沫感染」です。

もう一つは、飛沫で汚染されたものを触った手から目や鼻、口の粘膜に感染する「接触感染」です。

「飛沫感染」の予防策は、「マスク」の着用と、こまめな「うがい」です。

「接触感染」の予防策は、こまめな「手洗い」や、汚染された手で目や鼻、口に触れないことです。

もちろん、自分が感染原因とならないためには、咳が出るときに手やハンカチで口を押さえたり、続けて出るときにはマスクをしたりして、飛沫が周囲に飛び散るのを防ぐ、「咳エチケット」を徹底することが重要です。

これら一般的な方法に加え、積極的なインフルエンザの予防方法には、ワクチンを使った「予防接種」があります。現在日本国内で使われているワクチンは、A型ウイルスのH1N1亜型とH3N2亜型、B型ウイルスに対する免疫が得られるように調整されています。

もし、パンデミックが発生した場合、個人レベルの生活には、物流の低下による影響が懸念されます。この影響と、外出による感染を避けるために、「生活必需品の備蓄」が求められます。災害時と同じく、飲み水、(できるだけ調理に水を必要としない)食料品、常備薬など、各家庭の事情に合わせた生活必需品を、2週間分を目安に備蓄してください。